



授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期 **令和 4年 9月 ~ 10月** 学部 **小学部**
教科 **算数** グループ **A** 指導領域 **数と計算**

実態について
 個別の教育支援計画を確認（その子どもに必要なこと？） 個別の指導計画で領域を確認
 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 (1) この題材で達成が可能？【可能性】 (2) 現在の生活で必要は？【必要性】
 (3) 将来の豊かな生活につながる価値は？【価値性】

対象児：A

知識及び技能

- ・1~3までの数唱では、2を見て「3」や3を見て「4」と言う時がある。
- ・教師が「いちごを1個ちょうだい」と伝えると3個取って渡す。
- ・1の数字を見て、2や3のブロックを手取る。

思考力・判断力・表現力等

- ・果物や動物などの名称を聞いて、絵カードを選ぶことができる。
- ・教師が1~3までの数字カードを指し示しながら数詞を言う、まねて読むことができる。

学びに向かう力・人間性等

- ・具体物を操作する課題には自ら取り組むことが多い。

学習指導要領の扱う段階の目標と内容

小学部1段階 B 数と計算 ア(ア)⑤、(イ)⑦
 ・知識・技能 ア(ア)⑤ 3までの範囲で具体物を取る。
 ・学びに向かう力、人間性等の目標
 数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味を持ち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

【何を学ぶ？(知識)】 ・数対象を置く位置 ・数字が示す数量	【〇と判断できる発言や姿】 ・数対象の数量を示す数字の場所に数対象を置く	【大まかにどう段階化する？(詳細は題材計画で)】 ・教師の見本や言葉を見聞きして取り組む ・教師の言葉かけや働きかけを減らしていく
【どう学ぶ？(活動)】 ・身近な物の数量を数字と一致させる活動を設定する	【〇と判断できる発言や姿】 ・数字が示す数量の分だけ具体物を取り、数字の位置に置く	【大まかにどう段階化する？(詳細は題材計画で)】 ・同じ数字を続けて扱う ・扱う数字をランダムにする
【望む姿勢や姿は？】 ・教師の言葉かけや指し示を見聞きして、全ての課題が終わるまで取り組む ・数字と具体物の数を繰り返し正しく一致させる	【どう引き出す？】 ・短い時間で取り組める活動を複数設定する ・取り組む課題とその量を視覚的に示す ・課題を全て終えた後に、好きなことができる時間を設定する	

【教材は？】 【教材名： **お店屋さんゲーム** 】

【仕組み】

- ①果物の棒ブロックを数字が表示してある枠に置く
- ②3段ボックスの課題が1つ終わるとシールを獲得できる
- ③獲得したシールを自分のお店のシートに貼る

10 時間をどう使う？(題材計画)

知・技	【一次】 1.5時間 ・教師が渡した1~3までの棒ブロックを教師が「ここにはめて」と言って屋根付きブロックケースを指し示した時、はめる位置がわかり、教師が指し示した場所に棒ブロックをはめる	【二次】 6時間 ・教師と一緒に棒ブロックを(1~3)を指して押さえて数えた後に、「全部でいくつ？」の問いて、数字が示してある屋根付きブロックケースに棒ブロックを置く時、数え終わりの数字がわかり、教師の言葉かけや指し示を見聞きして、棒ブロックに対応する数字が示されたブロックケースの場所に置く	・1から順番に棒ブロックのブロック(1~3)を指して押さえて数えた後に、教師の「全部でいくつ？」の問いて、数字が示してある屋根付きブロックケースに棒ブロックを置く時、数字が示す数量がわかり、棒ブロックに対応する数字が示されたブロックケースの場所に置く	・教師が順不同で提示した棒ブロック(1~3)を指して押さえて数えた後に、教師の「全部でいくつ？」の問いて、数字が示してある屋根付きブロックケースに棒ブロックを置く時、数字が示す数量がわかり、棒ブロックに対応する数字が示されたブロックケースの場所に置く	【三次】 2.5時間
	思・判・表	教師が示した果物のブロック(棒ブロック)を指して押さえて数えた後に、教師の「全部でいくつ？」の問いて果物の棒ブロックを屋根付きブロックケースに置く時、棒ブロックの数量について考え、数字が示す数量を判断して数字が示されたブロックケースの場所に置く			
主体的姿	・活動に最後まで取り組む自分から課題に取り組む教師と一緒にやり直しをする ・教師が提示したブロックを見る ・教師の見本や言葉を見聞きして、模倣したり、数字を選んだりする				

【めあて達成のための工夫は？(場面設定・教具・働きかけなど)】

【工夫点】	【意図(ポイント)】
・1~3それぞれの数量のブロックを置く位置を知らせ指し示し言葉かけを行い、正しく置けた時に数量と数字が一致していることを意味づける	・はじめは教師と一緒にブロックを指し示しながら数えていき、徐々に支援を減らして、一人で確実に数えるようにする

【1時間をどう展開する？】

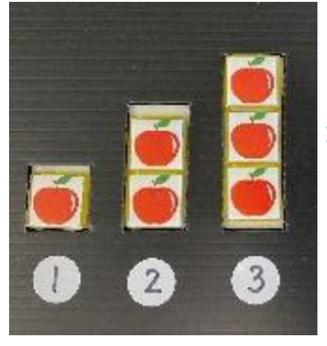
学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書・配置・教具など】
本時の学習内容を確認する	・「数字のうた」を歌うことで算数の学習が始まることを知らせる ・前時の内容を思い出せるように、お店のプリントを示して、それぞれが取り組んだこと、できたことを知らせ、本時の学習の内容を伝える	・その日の課題が視覚的にわかり、見通しをもって学習に取り組めるように3段ボックスを使う
お店屋さんゲームで数字と数量を一致させる	・3段ボックスにそれぞれの課題を入れて、具体物を操作しながら個人の課題に取り組む	
課題に取り組む	・個別の課題が1つ終わるごとに、ほしい商品(写真カード)を選び、お店シートに貼るようにする。それぞれの進度は個人ごとに異なるため、個別に認めを行う	
学習の成果を振り返る	・本時の成果がわかるように、できるようになったことを発表し、発表したことを具体的に認める	【改善】 ・普段使っている3段ボックスをAと他の児童の間にパーテーションとして設置したことで、視界を遮り、課題に取り組む姿が増えた

【評価】

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
・1つのブロックを見て、「3」と言う ・ブロックを違う数字の位置に置く	・ブロックを数え終わった後に、数量と対応する数字が示してあるケースを指さしたり、置く位置を知らせたりするようにした ・ブロックを正しく置くことができた時にブロック全体を指しながら「全部で3(1,2)だね」などと、数量と数字を一致させる働きかけを行った	・1から3までのブロックを対応するケースに自分で置くことができるようになった

実践のポイント

○ブロックケースの活用
 ・Aがブロックを数え終わった後に、数量と対応する数字が示してあるケースを指さしたり、置く位置を知らせたりするようにした。また、ブロックを正しく置くことができた時にブロック全体を指しながら「全部で3(1,2)だね」と、数量と数字を一致させる働きかけを行うことで、対応するケースに自分でブロックを置くことができるようになった。



・ケースに枠を設けることで、ブロックの数量と数字が一致しやすいようにした。

働きかけについて (HOW TO)
 自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
 活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
 誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
 子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
 抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
 つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけを
 課題遂行につながる効果的なことばかけ
 何がよかったかわかるよう即時評価
 よさや価値を伝えられる認め
 働きかけを段階的に減らしていく工夫

- 題材目標について**
- それぞれの子どもの目標を個別化する
 - 授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿（到達像）の具体化する
 - 身につけたいことを焦点化する
 - 前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
 - 例：教材の仕組み、学習環境の工夫など
- 教材について**
- 子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる？
 - 必要性を感じ、課題をもてる？
 - 主体的・対話的な活動は取り入れられる？
 - 絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる？
 - 子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる？
 - 子どもにとっての強化子はある？
- 題材計画について**
- つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている？
 - 子どもの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている？
 - 全体の計画と個別の計画がわかるようになっている？
- 【一次】**
- 仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる？
 - 活動の意味やよさが十分理解できる？
- 【二次】**
- 二次は確実な知識の習得
 - 子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない？
 - 負荷がかかりすぎではない？
 - 支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている？
 - 友だちと一緒に学ぶ場が計画されている？
 - 自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み？
- 【三次】**
- できるようになったことを生かす場は設定されている？
- 学習環境について**
- 活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置？
 - 不要な刺激は排除している？
 - 仕方や手順がわかりやすく伝えられる？
 - 成果が見てわかる？
 - 自分で仕方や手順を確かめられる？
 - 教具は、思考(わかる)を補助できる？
 - 教具は一人で使えるようになる？
 - 期待感(してみたい!)をもてる？
- 学習活動について**
- 導入は課題理解、興味関心
 - 展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切？
 - 発展は定着、応用、工夫できる？
 - 終末は自己評価と次時への意欲
 - 目的や意味、よさがわかる？
 - 何をどのくらいどのようにするかわかる？
 - 課題は段階的に高まっている？
 - 間違いに気づいてやり直せる仕組み？
 - 学習の結果と目的がつながって達成感をもてる？
- 評価について**
- めあてと指導はつながってる？
 - 文章・文法はわかりやすい？伝わる？
 - 不適切な表現はない？(難しい、できないなど)

① 9/12	【うまくいかなかったこと】 ・2や3の表示の枠の中に、数字と違う1や2の棒ブロックを置く姿が見られた。	【うまくいかなかったこと】 ・教師が1と2の棒ブロックを並べて提示して「2をください」と言うと、1の棒ブロックを取ることがある。
【気づいたこと】 ・机上の教具の配置を整理する必要がある。	【気づいたこと】 ・数字と数量のまとまりが確実に一致するようにしていく必要がある。	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・学習の仕組みがわかるように教師が仕方を示してから取り組む。	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・自分から次々と取り組む姿があるので、問題数を増やすようにする。	
② 9/14	【うまくいかなかったこと】 ・課題を9問設定して、教師がケースから次々として出て行ったが、5問目から「しない」と言う姿が見られた。	【うまくいかなかったこと】 ・教師が1、2、3の棒ブロックを並べて提示して「2をください」と言うと、3の棒ブロックを取る。
【気づいたこと】 ・ブロックを数量のまとまりとして捉える働きかけをする。	【気づいたこと】 ・棒ブロックを数える前に教師の言葉かけや指さしを待っている。	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・ブロックを対応する数字のケースに入れた時に、ブロックを指し示しながら「全部で3だね」と意味づける。 ・課題を6問に減らし、導入時にケースの課題を一緒に数えて見通しがもてるようにする。	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・自分から棒ブロックを数えて数量のまとまりを捉えることができるように言葉かけや指さしを減らしていく。	
③ 9/16	【うまくいかなかったこと】 ・棒ブロックを指して押さえながら数える時、2つ目を「3」、3つ目を「2」と言う。 ・数字と棒ブロックの数が一致していない時がある。	【うまくいかなかったこと】 ・2回目の3のブロックを数える時、2番目のブロックを飛ばして、「1、2」と数える。
【気づいたこと】 ・ブロックを1つずつ確実に数えるための工夫が必要。	【気づいたこと】 ・ブロックを数量のまとまりとして捉えることができきている。	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・ドットシールを順番に貼りながらブロックを飛ばさないように数えるようにする。	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・具体物の数え方と数量のまとまりとして捉えることが定着するようにする。	
④ 9/21	【うまくいかなかったこと】	【うまくいかなかったこと】 ・1から2までの棒ブロックから教師が「1(2)をください」と言うと、同じ数のブロックを全て取ることができたが、3については、3回行う中で1度だけ2を取った。
【気づいたこと】 ・ドットシールを1つずつ確実に貼りながら数えるための働きかけが必要。	【気づいたこと】 ・1～3の数量のまとまりを捉えることができている。	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・ブロックを飛ばしてドットシールを貼りそうになった時は、教師が手を添えて「これは2」だねなどと言いながら一緒に貼るようにする。	主・対で深い学びの実現に向けた改善	